

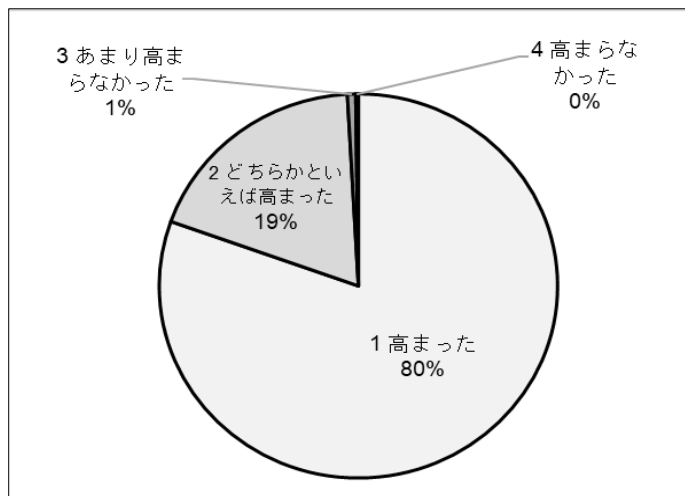
体罰防止に係る意識調査の結果について

「姫路市体罰のない学校園づくりのための検討会議のまとめ（26の対策）」に基づく取組について、意識調査を行った結果を報告する。

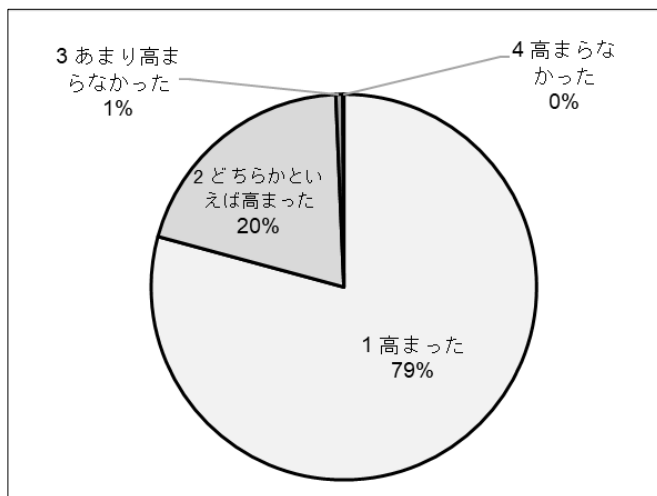
- 1 対象校 全幼、小、中、義務教育、特別支援、高等学校
- 2 対象者 全教職員（回答数 2,537人）
- 3 回答期間 令和5年12月13日（水）～令和6年1月12日（金）

1-1 体罰等の防止について、意識は高まりましたか

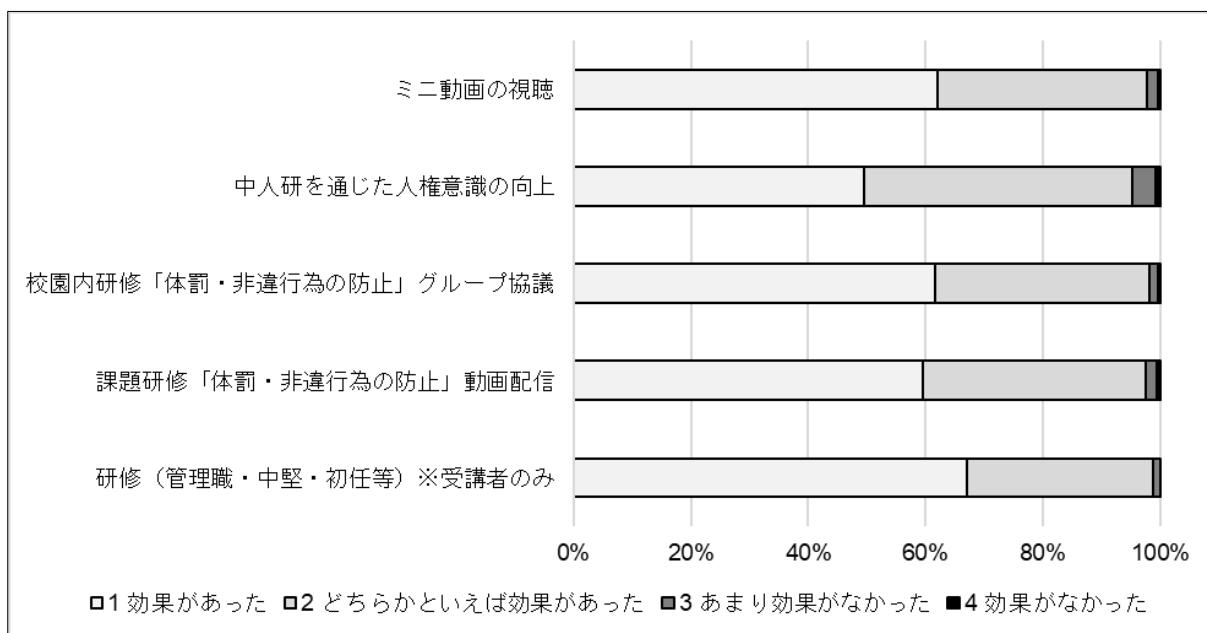
令和4年度



令和5年度



1-2 体罰防止等の防止に関する取組の効果について

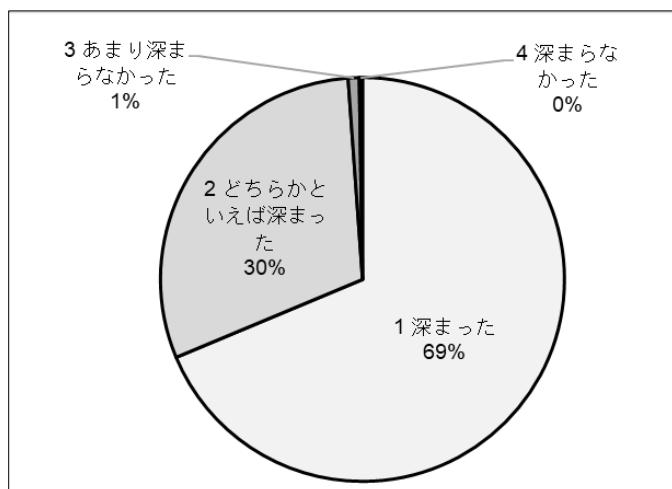


【主な意見】

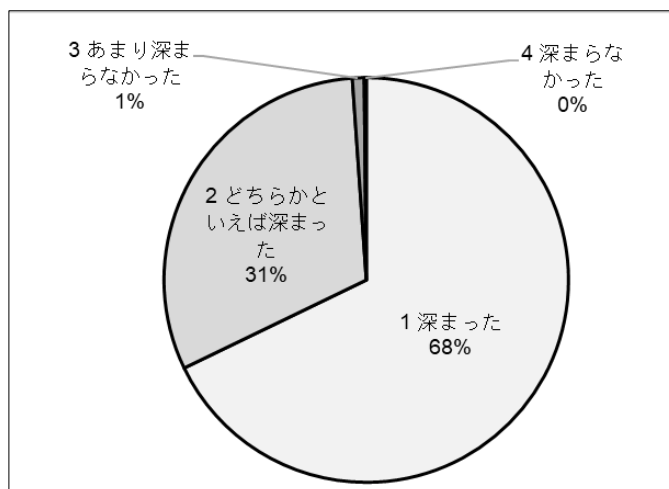
- ・ 自身や組織を常に振り返り、強い口調や言動・思い込みによる指導となっていないかを改めて考えるきっかけとなった。
- ・ 体罰防止に限らないが、何にしてもいつの間にか意識が薄れてしまっている時があります。その意識を高め直すためにも、定期的な研修等は必要だと思います。また、お互いが気軽に相談し合えるような職場環境づくりもさらに進めていきたいと思えます。
- ・ 研修を繰り返すことによって、生徒への指導が必要になったときは、なぜその行為が悪いのかをわかりやすく本人が納得するように説明するようになった。
- ・ 自分は大丈夫と思わない謙虚な気持ちを持ち続けることがとても大切だと思います。いろいろな事例を通してハッとさせられることもありました。

2-1 特別支援教育について、理解は深まりましたか

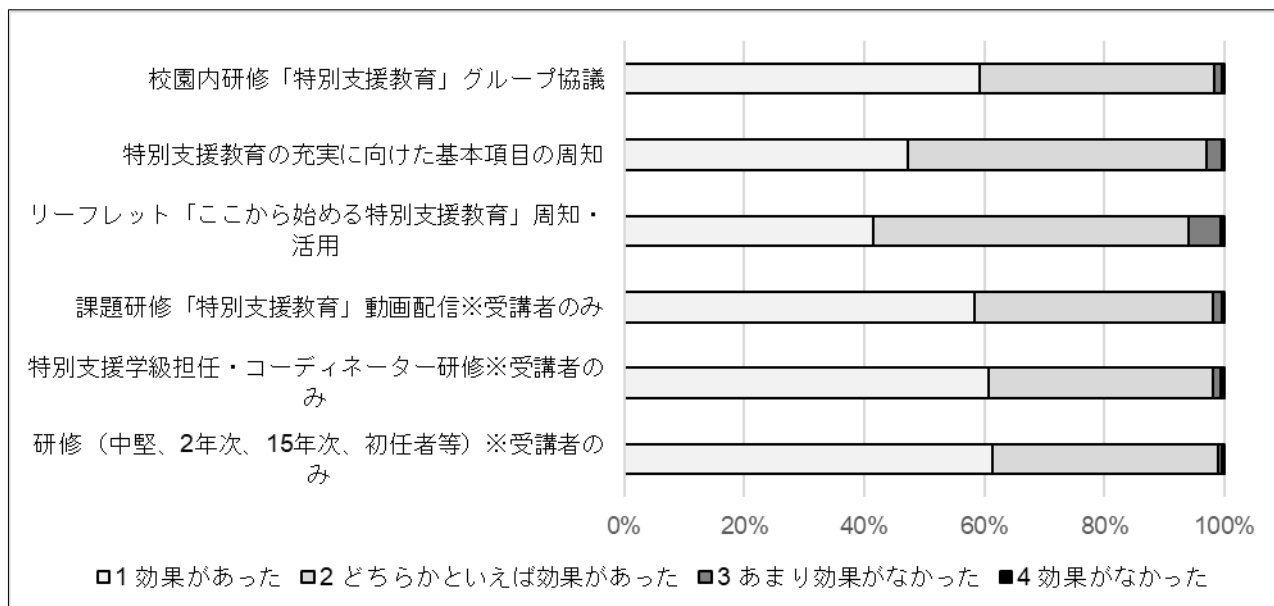
令和4年度



令和5年度



2-2 特別支援教育の理解を深める取組の効果について

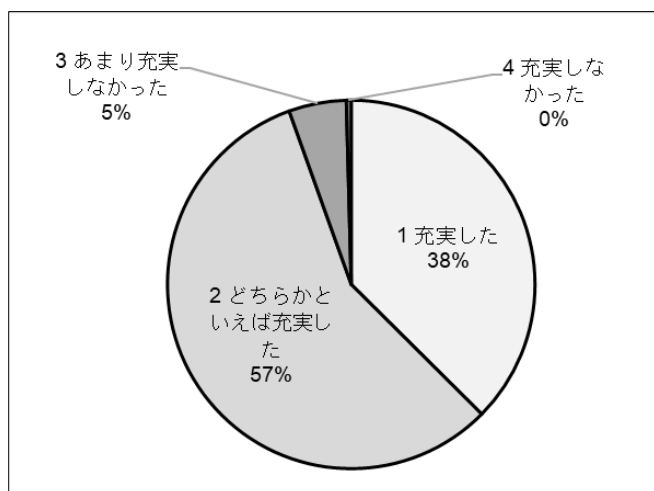


【主な意見】

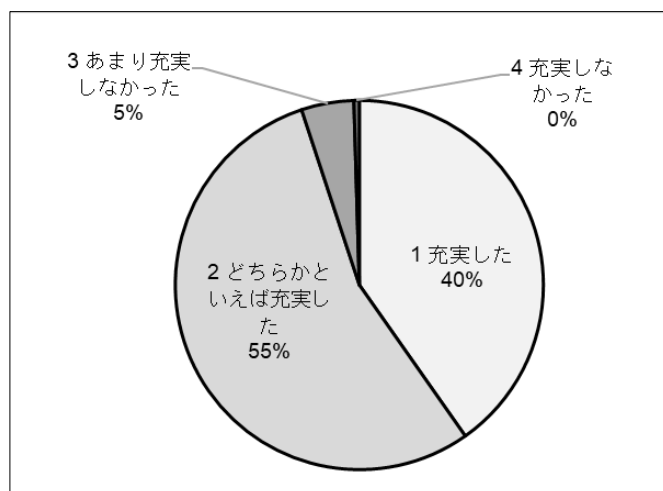
- ・ 特別支援学級の生徒を含む、通常学級においても支援が必要な生徒に対して、職員会議等様々な場面での情報共有、特別支援教育コーディネーターからの研修報告の実施を通して、一人ひとりを大切にしていくことの重要性について理解が深まっている。
- ・ 喫緊の課題でもあるが、「通常学級に在籍する特性のある生徒の対応」についてはさらに研修を深め、知識・理解だけでなく、指導のスキルアップに努めなければならないと感じている。
- ・ 児童理解について、特に特別支援教育に関する研修が非常に有意義であったと思います。児童を理解することで、アンガーマネジメントにもつながりました。
- ・ 特別支援の研修動画を見て、大変恥ずかしながら自分の知識が古くなっていることに気づいた。改めて、正しい知識を常に更新していくことの大切さを感じた。
- ・ 理解はできているが、指導方法等が見つけられない者もいるのが現状である。

3-1 相談・支援体制は充実しましたか

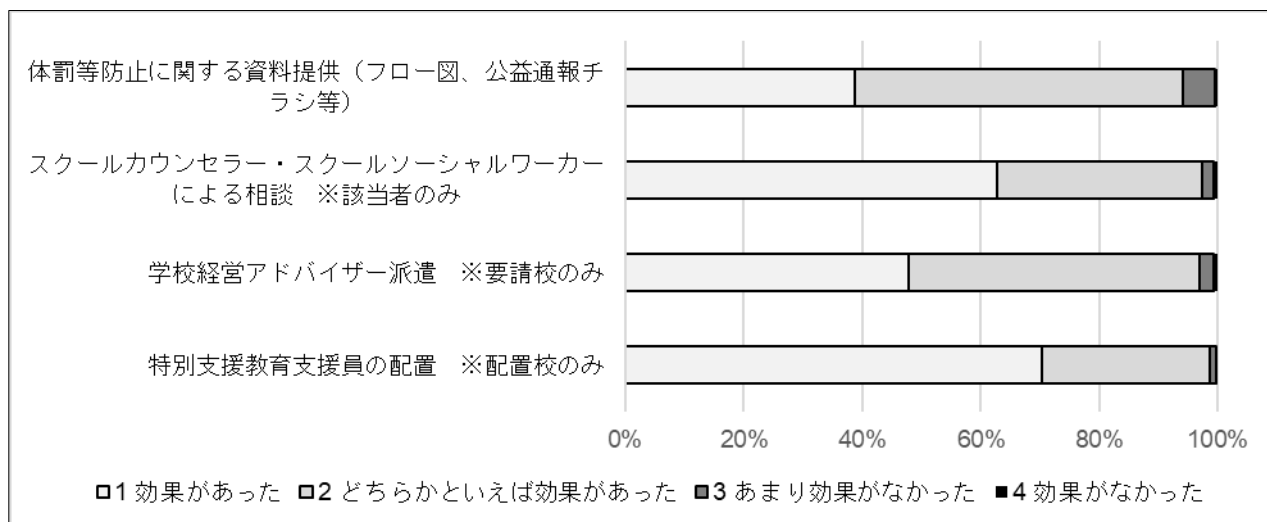
令和4年度



令和5年度



3-2 相談・支援体制を充実する取組の効果について

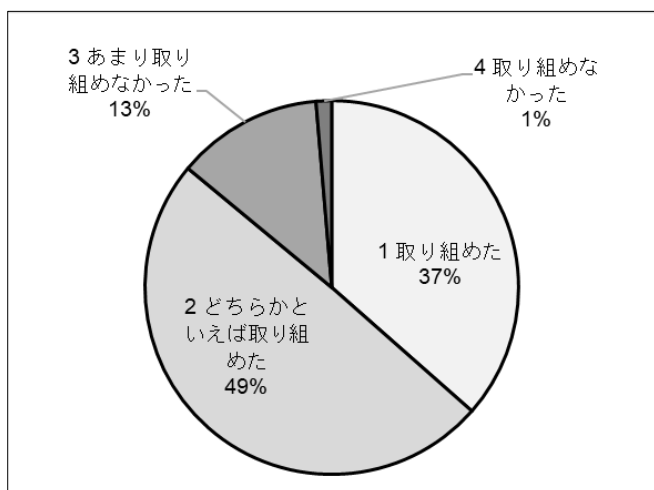


【主な意見】

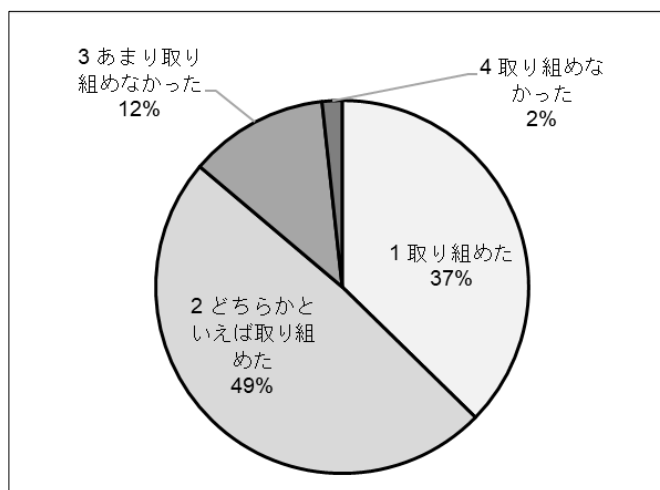
- ・ 体罰防止に向けて、定期的な動画視聴やグループミーティング等で気持ちを引き締めています。また、周りの教職員の言葉や行動にも視野を広げ、学校全体で体罰防止への取組に努めます。
- ・ 体罰や、それにつながる不適切な指導の防止に対する職員の意識は高まってきているように感じます。しかしその一方、保護者、生徒、教師の関係の距離感が上手くない教員も見受けられるようにも感じます。
- ・ 体罰は絶対許されないことだという意識を持ってどの教員も指導にあたっていると思います。ただ、日々最前線で子どもたちと接していて、体罰禁止を意識する中で、なす術がなくどうしていいかわからないことも多々あります。
- ・ 体罰は、完全になくさなければならない。我々職員が、しっかりコミュニケーションをとれるようにしなければならない。
- ・ 日頃から、児童への指導方法や生徒指導での悩みを話し合うようにしている。情報交流する中で、体罰や暴言をせず有効な指導方法を見つけていきたい。

4-1 メンタルヘルス（心身の健康）対策について、取り組めましたか

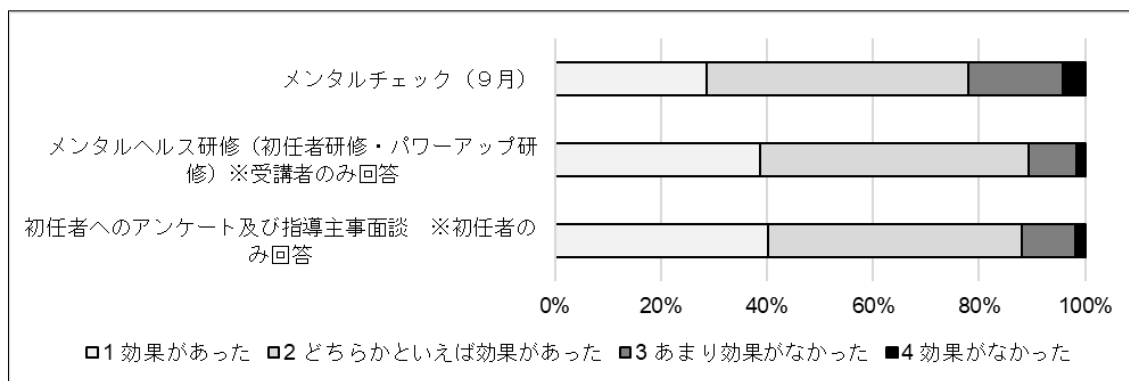
令和4年度



令和5年度



4-2 メンタルヘルス（心身の健康）対策に関する取組の効果について



【主な意見】

- ・ 職員間の風通しがよくなればなるほど、抑止力になるな、という実感があります。同時に職員の働き方、心の余裕を持った働き方が大事なのでは、とも強く思います。
- ・ ゆとりのある状況・心で生徒と対応すると、言葉遣いや行動にも「失敗」が少なくなるように思います。現状は1クラス人数の多さ・懸案の多さ・問題発生件数の多さでかなり難しいです。体罰はしませんが、こちらの心身は厳しい状況です。
- ・ 何よりも大事なのは、自分の心に余裕をもって対応していくことだと思います。一人で抱えずに相談したり、情報を共有したりと日々の積み重ねを大事にして、心身ともに健康な状態を保てるように取り組んでいきたいと思います。
- ・ 多様な価値観を理解しつつ、それでもこの一線を越えると体罰になるという明確なボーダーをしっかりと理解すること、ボーダーが見える状態にいるために心の健康を保つこと、自分の心の限界を知ること、周囲と相談し合える関係性を築くことなど、体罰を防止する上で取り組まなければならないことは多くある。知っていることも改めて研修することで、その時々での理解度や心境の変化は異なると感じるので、今後も研修を続けていきたい。
- ・ 精神的な余裕を持つことやチーム担任などの協働体制が大切だと思います。「余裕を持つこと」について個人に任せない組織的取り組みが不可欠だと思います。
- ・ 体罰防止のためには、教師自身のメンタルヘルス、コントロールする余裕も大事